



薬に関する Q&A

Q 処方された薬を自分以外の人にあげてもいいですか？

A 医師が処方した薬は、患者さんひとり一人を診断した上で、それぞれの症状・体質・年齢などを考えて処方されています。自分が飲んでいる薬を、症状が同じだからといって絶対に人にあげないでください。医師が処方した薬は、あなただけの薬です。

Q 薬の飲み合わせって大丈夫？

A 2つ以上の薬を併用すると、その種類によってお互いに影響し、効かなくなったり、効き過ぎることがあります。それによって期待される作用が現れにくくなったり、思わぬ副作用が現れて、適切な診療の妨げとなることがあります。病院にかかる時、薬を買う時には、今使っている薬を必ず医師や薬剤師などの専門家に伝えましょう。

Q 体調が良くなっても、処方された薬はすべて飲む方がいいの？

A 症状が良くなったので薬を止めたという自己判断はよくありません。症状が軽くなっても、病気は治っていない場合があり、治りかけた病気をまた悪化させることもあります。特に、高血圧や糖尿病の薬は、急に薬を止めると危険な場合があります。自分で判断せずに処方された通りに薬を飲みましょう。

Q 高齢者の薬の飲み方で注意することは？

A 高齢者は、血圧の薬や心臓の薬など、複数の薬を併用することが多くなります。使用期間も長くなりがちです。また、薬の代謝や排泄に関わる肝臓、腎臓などの働きが弱くなっていることが多いので、薬が効き過ぎたり、思わぬ副作用が現れることがあります。薬の使用量など特にその使い方に注意して、医師や薬剤師などの専門家から十分に説明を受け、正しく使いましょう。

Q OTC 医薬品（一般用医薬品）を上手に利用するには？

A 医師が処方する薬と違って、薬局・薬店で買えるOTC医薬品は自らの判断によって使用することを前提として作られ、有効性や安全性を重視して成分や分量を決めています。用法用量を守って服用しても症状が改善しない場合は、薬剤師、登録販売者等に相談して使用しましょう。



一般社団法人
広島市薬剤師会
HCPA Hiroshima City Pharmaceutical Association

お薬に関するご相談は…
(社)広島県薬剤師会 おくすり相談電話

Tel. **082-545-1193** **相談無料**

◎受付/10:00~15:00(月~金曜日※祝日、お盆休み、年末年始を除く)

薬・たばこなどの誤飲時の応急処置に関するご相談は…

(社)広島県薬剤師会 広島中毒119番

Tel. **082-248-8268** **相談無料**

または **フリーダイヤル0120-279-119**

(ただしご利用は県内から、一般電話と携帯、PHSのみ有効)

◎受付/9:00~17:00(月~金曜日※祝日、お盆休み、年末年始を除く)

Vol. **4** 広島市薬剤師会
レポート

私の街の薬屋さん

今回、薬剤師会からお届けするテーマは“知っておきたいお薬の知識”です。薬の飲み方から知っておくべき副作用のことなど、詳しく解説します。自分が飲んでいるお薬のことをしっかり理解して、セルフメディケーションに努めましょう！



step.1
お薬の正しい
飲み方

薬をツバで飲んだり、寝て飲んだりすると、溶けずにノドにくっついて、ただれたりする原因になります。そこで、ノドにくっつくのを防ぎ、早く溶けて効き目を良くするために、なるべくコップ1杯くらいの水、またはぬるま湯で飲みましょう。牛乳やジュースなどで飲むと、薬の効果が出なかったり、逆に効き過ぎたりする原因になる場合があります。薬には、高血圧の薬、糖尿病の薬、抗生物質などのように、決められた通りにきちんと飲まなければならぬ薬と、痛み止めの薬や便秘薬などのように必要がある時だけ飲んで、良くなったら止めても良い薬があります。わからない時は勝手に判断せず、医師や薬剤師に聞きましょう。薬を飲む時間や回数は必ず守りましょう。

薬にはそれぞれ飲み方が決められています。

食前	食事をするおおよそ30分前
食後	食後おおよそ30分以内
食間	食事のおおよそ2時間後
就寝前	寝る前おおよそ30分以内
頓服	痛む時とか熱がある時など、必要に応じて飲む
時間毎	6時間ごとのように、食事に関係なく決められた時間ごとに飲む

step.2
薬の主作用と
副作用

どんな薬にも主作用と副作用があります。目的とする効果を主作用といい、目的としない作用を副作用といいます。例えば、アスピリンは熱を下げたり痛みを取ることに主作用ですが、胃が痛くなったり、ブツブツが出たりする場合があります。これが副作用です。もちろん副作用は飲んだ人全員に出るわけではありません。たいていの副作用は、用法・用量や使用上の注意を守ることによって防ぐことができますが、あらかじめ予想することは難しく、飲んでみないとわからないのが現状です。もし副作用かなと思ったら、すぐに医師や薬剤師に伝えましょう。そして、副作用を経験し自分に合わないことがわかった薬についてはお薬手帳に記録しておき、次回薬をもらう時には、医師や薬剤師に相談しましょう。



特にこういう人は気をつけましょう！

自分があてはまるか考えてみよう

- 特異体質(アレルギー)のある人
- 過去にひどい副作用を経験している人
- 肝臓など、薬を代謝する臓器に疾患のある人
- 他にも薬を飲んでいる人
- 妊娠している人
- 仕事などで特別な環境にある人
(例：高所作業者・ドライバーなど)

副作用の例

薬物
アレルギー

アレルギー反応は薬にもあります。原因不明の発疹、発熱、かゆみなどが出た場合には、すぐに医師または薬剤師へ相談しましょう。

眠気や
めまい

かぜ薬や咳止め、鼻炎の薬などには眠くなる成分が含まれているので、薬を飲んだ後は高いところにあがったり、車や自転車に乗るなど危険なことはやめましょう。

胃腸障害

胃がからつぽの状態では薬を服用し、その刺激により胃が痛くなることがあります。解熱鎮痛薬などは何か食べてから飲むようにしましょう。